

平成元年度宅地建物取引主任者

資格試験の結果について

試験部

平成元年度の宅地建物取引主任者資格試験の結果がまとまりましたので、御紹介します。

一 受験申込者

① 平成元年度の申込受付は、七月三十一日（月）から八月四日（金）まで五日間行いました。

申込者総数は、三三万九、二八二人。はじめて三〇万人をこしました。昨年に比べて、二〇・九％の増です。これまで、昭和六十年が約一二万人、六十一年が約一五万人でしたが、六十二年約二二万人、六十三年約二八万人、元年約三四万人と、ここ数年大きく伸びています。

② 申込者の内訳を見ますと、絶対数では、相変わらず大都会の申込者が多い傾向があります。東京が六万人近く、大阪、神奈川が三万人台。埼玉、千葉が二万人台。兵庫、愛知

第1表 申込者地域別内訳表

	申込者	対前年比
北海道・東北	21,287	22.5%増
関東	21,083	29.5%増
一都三県	140,994	17.9%増
東海・北陸	33,127	19.4%増
近畿	73,701	22.1%増
中国・四国	20,069	21.0%増
九州	29,021	28.1%増
計	339,282	20.9%増
8県	221,749	18.8%増
39県	117,533	25.0%増

福岡が一人台。これら八都府県で、二二万一、七四九人、全国の三分の二近くを占めます。

一方、伸び率では、地方の伸びが目立ちました。八県の伸び率一八・八％に対し、残り三九県は二五・〇％。六％強高くなっています。特に、関東（二九・五％）、九州（二八・一％）の伸びが目立ち、宮崎（五四・八％）、山梨（五〇・一％）では、五〇％をこしました。これまで、昭和六十一年は一都三県、六十

第2表 申込者男女別内訳表

	申込者	対前年比
男	264,565	19.6%増
女	74,717	25.4%増
計	339,282	20.9%増

二年は一都三県と近畿、昨六十三年は近畿と関東の伸びが目立っていましたが、今年は関東と九州に移行しました。

③ 男女別では、女性の伸びが目立ちました。男性の伸びが一・九・六％に対し、女性は二五・四％。五・八％高くなっています。この結果、女性の比率は、二二・〇％（六十三年二二・二％）になりました。

この女性の伸びも、地方で伸びています（八県二二・一％、三十九県三三・五％）。特に鳥取（九一・三％）、島根（八一・〇％）は、八〇％をこしました。

④ 平均年齢は、今年も三三・五才です。

一〇代、二〇代が四割強（四二・六％）、三〇代が三割強（三〇・四％）。三〇代までで全体の四分の三近くを占め、四〇代は二割強（一九・三％）、五〇代以上は一割弱（七・七％）。昨年と同様です。

第3表 申込者年代別男女別内訳表

	申込者	男	女
10代	5,076 (1.5%)	3,328 (1.3%)	1,748 (2.3%)
20代	139,531 (41.1%)	101,368 (38.3%)	38,163 (51.1%)
30代	103,135 (30.4%)	84,463 (31.9%)	18,672 (25.0%)
40代	65,499 (19.3%)	52,150 (19.7%)	13,349 (17.9%)
50代	21,622 (6.4%)	19,082 (7.2%)	2,540 (3.4%)
60代	4,419 (1.3%)	4,174 (1.6%)	245 (0.3%)
計	339,282	264,565	74,717

地域的には、近畿（三三・〇才）、一都三県（三三・一才）は比較的年齢が低く、中国・四国（三四・八才）、九州（三四・六才）、北海道・東北（三四・五才）が若干高くなっています。

男女別では、男が三四・一才、女が三一・二才。女性の方が二・九才若く、女性は一〇代、二〇代で五割をこしています（五三・四％、男三九・五％）。

二 受験者

① 試験は、十月十五日（日）、全国一九三会場、五、一〇七教室で行いました。

申込者のうち五万七、五八一人が欠席し、

第4表 受験者男女別内訳表

	受験者	対前年比	受験率
男	218,100	18.0%増	82.4%
女	63,601	24.7%増	85.1%
計	281,701	19.5%増	83.0%

受験者総数は二八万一、七〇一人、昨年に比べて一九・五％増えました。

② 受験率は、八三・〇％。昨年より一％下りました。

地域的には、今年も近畿が最高でした（八四・二％）。県別に見ますと、種々差があります。中には、八割を切った所もあり（鳥取七五・一％）、最高の県（高知八五・九％）と一〇％の差があります。

会場別には、申込者の遅い追加会場ほど受験率が低く、軒並み七割台、中には七割を切った会場も幾つかあります。最高の会場（九二・三％）と最低の会場（六六・五％）では、二五％強の差が出ました。

男女別では、女性（八五・一％）の方が男

性（八二・四％）より二・七％高く、昨年よりも〇・七％差が拡がりました。この結果、

受験者の伸び率は、全体で一九・五％ですが、女性（二四・七％）の方が男性（一八・〇％）よりも六・七％高くなりました。

年代別で、高令者の受験率が高く（五〇代以上八七・三％）、三〇代の受験率が低い（八一・一％）傾向は、昨年と同様です。

③ 平均年齢は、三三・五才。申込者と変わりますが、内訳を見ますと、男三四・二才、女三一・四才。男女とも申込者より高くなっています。

業種別には、不動産業が三三・〇才。平均よりも〇・五才若く、金融関係（三四・一才）、他業種（三五・六才）が平均よりも高いのと、対照的です。なお、主婦は、三六・九才です。

④ 職業別には、不動産業の比率が三割強（三一・二％）で最も高く、金融関係は一割代（一五・一％）、他業種が三割弱（二八・三％）。学生（八・三％）、主婦（五・五％）は、一割弱です。

昨年と比べますと、学生の伸び（二八・八％）が目立ちます。

第6表 受験者職業別内訳表

	受験者	比率
不動産 金融 関係	87,732	31.1%
他業種	42,420	15.1%
学生	79,586	28.3%
主婦	23,398	8.3%
その他	15,604	5.5%
不明	30,062	10.7%
計	2,899	1.0%
計	281,701	

不動産業、学生は大都市県で、また、他業種は地方で、それぞれ比較的多い傾向があります。
男性は、不動産業（三一・五％）と他業種（三一・〇％）で六割をこえ、また、女性は、不動産業（三〇・二％）と主婦（二四・五％）で六割近くに達しています。

第5表 受験者年代別内訳表

	受験者	比率	受験率
10代	4,393	1.6%	86.5%
20代	116,225	41.3%	83.3%
30代	83,637	29.7%	81.1%
40代	54,712	19.4%	83.5%
50代	18,849	6.7%	87.2%
60代	3,885	1.4%	87.9%
計	281,701		83.0%

三 合格者

① 合格者は、十一月二十九日（水）発表しました。

合格者総数は、四万二、九七八人。昨年に比べて、二、四四一人、六・二％の増です。

② 合格率は、一四・九％。昨年（一六・八％）より一・九％下りました。

地域的に、一都三県の合格率が高く（一六・六％）、地方で低い傾向（八県一五・八％、三十九県一三・一％）は、昨年と同様です。県別では、最高の県が一七％をこえたのに対し（東京一七・一％）、一割を切った県も幾つかありました。

男女別では、女性の伸びが目立ちました。

女性の合格率（一九・七％）は、男性（一三・五％）よりも六・二％高く、昨年の差（五・四％）より〇・八％拡がりました。この結果、合格者の伸び率は、女性（一七・四％）の方が男性（二・〇％）より一五％も高くなりました。

また、合格者の比率では、女性は約三割（二九・九％）に達し、昨年（二七・〇％）より約三％増えました。

職業別でも、主婦の合格率（二五・二％）が、不動産（二三・九％）、金融関係（二二・

一％）、他業種（二四・五％）、学生（二四・〇％）より、今年も一〇％以上高くなっています。

年代別では、三〇代の合格率（二五・五％）が最も高くなっています。

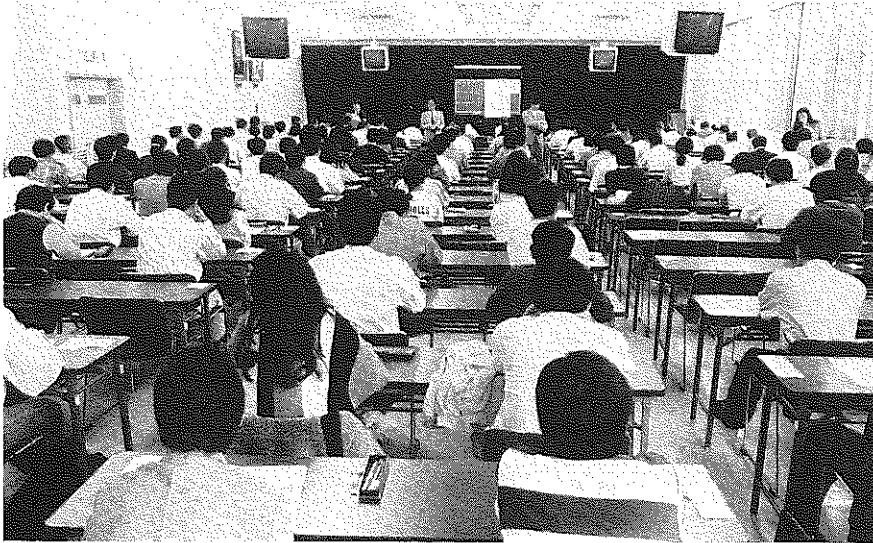
第7表 合格者男女別内訳表

	合格者	対前年比	合格率
男	29,426	2.0%増	13.5%
女	12,552	17.4%増	19.7%
計	41,978	6.2%増	14.9%

③ 平均年齢は、三三・五才。昨年より〇・二才高くなり、申込者、受験者と同じになりました。

内訳は、男三四・一才、女三二・一才。受験者に比べて、男性は〇・一才若く、逆に女性は一・七才高くなっています。男女間の年齢差二・〇才は、昨年と変わりません。

大正生れは、二〇七人、〇・五％。昨年より七一人減りました。合格率は、一一・〇％



です。このうち、女性は六人。なお、最高令者は、大正四年十二月生れの方でした。

職業別では、不動産業が三二・九才。平均よりも〇・六才若くなっています。金融関係三三・七才、他業種三五・七才、学生二一・

四才、主婦三六・四才。不動産業、金融関係、主婦が受験者よりも若く、他業種、学生が逆に高くなっています。

第8表 合格者年代別内訳表

	合格者	比率	合格率
10代	464	1.1%	10.6%
20代	17,367	41.4%	14.9%
30代	12,952	30.9%	15.5%
40代	8,278	19.7%	15.1%
50代	2,424	5.8%	12.9%
60代～	493	1.2%	12.7%
計	41,978		14.9%

④ 職業別のシェアは、不動産業が約三割（二九・一％）、金融関係一割強（一二・二％）、他業種三割弱（二七・六％）、学生一割弱（七・八％）、主婦約一割（九・四％）です。受験者とはほぼ同様ですが、合格率を反映して、主婦の増加が目立ちます。

第9表 合格者職業別内訳表

	合格者	比率	合格率
不動産業	12,218	29.1%	13.9%
金融関係	5,126	12.2%	12.1%
他業種	11,577	27.6%	14.5%
学生	3,283	7.8%	14.0%
主婦	3,940	9.4%	25.2%
その他	5,513	13.1%	18.3%
不明	321	0.8%	11.1%
計	41,978		14.9%

平成元年度 宅地建物取引主任者資格試験 実施状況

都道府県名	受験申込者数	受験者数	受験率%	合格者数	合格率%
北海道	9,322	7,665	82.2	889	11.6
青森県	1,104	913	82.7	116	12.7
岩手県	1,310	1,060	80.9	112	10.6
宮城県	4,616	3,851	83.4	482	12.5
秋田県	800	663	82.9	74	11.2
山形県	1,110	891	80.3	83	9.3
福島県	3,025	2,463	81.4	238	9.7
茨城県	5,644	4,744	84.1	689	14.5
栃木県	3,835	3,157	82.3	405	12.8
群馬県	3,572	2,942	82.4	466	15.8
埼玉県	25,573	21,441	83.8	3,324	15.5
千葉県	22,789	18,834	82.6	3,193	17.0
東京都	59,300	48,872	82.4	8,340	17.1
神奈川県	33,332	27,632	82.9	4,510	16.3
新潟県	2,901	2,406	82.9	379	15.8
富山県	1,644	1,361	82.8	159	11.7
石川県	1,978	1,610	81.4	184	11.4
福井県	1,527	1,209	79.2	137	11.3
山梨県	1,701	1,364	80.2	175	12.8
長野県	3,430	2,766	80.6	330	11.9
岐阜県	2,928	2,426	82.9	298	12.3
静岡県	8,251	6,826	82.7	915	13.4
愛知県	14,167	11,987	84.6	1,700	14.2
三重県	2,632	2,191	83.2	276	12.6
滋賀県	2,911	2,405	82.6	315	13.1
京都府	9,922	8,450	85.2	1,232	14.6
大阪府	35,009	29,450	84.1	4,479	15.2
兵庫県	18,609	15,674	84.2	2,242	14.3
奈良県	4,833	4,090	84.6	586	14.3
和歌山県	2,417	1,963	81.2	271	13.8
鳥取県	627	471	75.1	46	9.8
島根県	803	659	82.1	74	11.2
岡山県	3,184	2,659	83.5	358	13.5
広島県	6,863	5,617	81.8	826	14.7
山口県	2,374	1,966	82.8	285	14.5
徳島県	1,187	956	80.5	112	11.7
香川県	2,063	1,720	83.4	245	14.2
愛媛県	2,221	1,831	82.4	257	14.0
高知県	747	642	85.9	100	15.6
福岡県	12,970	10,723	82.7	1,428	13.3
佐賀県	1,271	1,066	83.9	127	11.9
長崎県	2,377	1,978	83.2	220	11.1
熊本県	3,233	2,675	82.7	349	13.0
大分県	1,841	1,468	79.7	167	11.4
宮崎県	1,611	1,313	81.5	143	10.9
鹿児島県	2,549	2,047	80.3	239	11.7
沖縄県	3,169	2,604	82.2	403	15.5
計	339,282	281,701	83.0	41,978	14.9